

I 研究について

本校は、毎月、校舎内外 14 ポイントで放射線量を測定し公表している。しかし、放射線量はどのポイントを見ても低いこともあり、放射線に対する児童・保護者の意識は低い。さらに、東日本大震災から 9 年が経過しようとしている現在、これからは、放射線はおろか、震災のことさえ知らない子がどんどん増えてくる。そこで、教職員で「会津だからこそできる放射線教育」について話し合い、風化防止や、未来へ語り継ぐためにも地域の現状と児童の実態に合った放射線教育を実施していくことが必要であることを確認し、以下の 2 点について進めていくこととした。

- まず、全ての教職員が放射線教育への意識を高めること。さらに、現在ある指導計画・内容の見直しをするとともに、資料の充実を図り、教科横断的な取組を行っていくこと。
- 総合的な学習の時間の「ふるさと学習」と関連させながら、ストーリー性を持った問題解決型の学習を進めていくこと。

II 研究の実際について

第 5 学年 総合的な学習の時間での取組

1 単元名 「湯川のよいところを見つけよう」

～湯川米のおいしさの秘密をつたえよう～

2 単元目標

- ・ 米作りの体験（田植え、稲の観察、稲刈り）を通して、湯川米に込められた人々の苦勞、思いや願い（秘密）に気づき、それを伝えるために自分ができることを考える。
- ・ 湯川村の基幹産業である「米」について調べる活動を通して、それに関わる人、もの、自然のよさを知ることによって郷土愛を育む。

3 単元について

<単元設定の理由>

「米」を素材に学習を展開していく理由としては、湯川村の基幹産業が「米」である以外に次のとおりである。

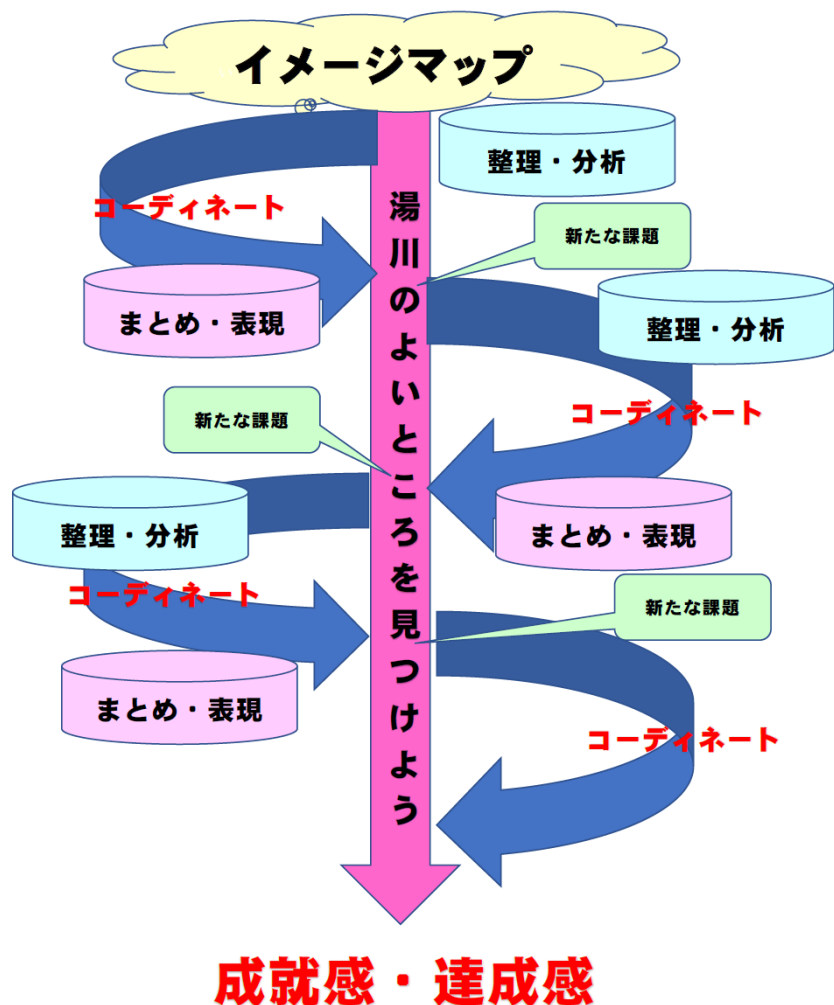
- ・ 各関係機関と連携・協力しながら、田植え、観察、稲刈り等、長期にわたる体験的な学習を組み込むことができる。

- ・ 「米」から子どもたちの知らない歴史（東日本大震災、原発事故）や未来、生産及び経済等、多様な面から知識獲得の可能性がある。
- ・ 子ども達の周りには「米」に関わる人や事象がたくさん存在し、学習活動が展開しやすい。

<単元の流れ>

本単元では、実際に稲を栽培し、田植えから収穫・消費までを体験する。その地産地消体験を通じて、稲作の苦労や難しさを実感し、収穫の喜びを味わうことが1つの重要な学習活動となる。また、「米」作りを通して、米作りに関わる人々の苦労、思いや願いを知り、農業や環境などへの問題意識に対して自分なりの考えをもつことも大切な活動である。そこで、子ども達が作成した活動計画を実施していく上で、一つ一つの活動の後に、「思ったこと」「考えたこと」「新たな疑問」という3つの観点で反省を書かせる。教師の役割としては、新たな疑問が出てくるように活動をコーディネートしていく、いわばコーディネーターである。例えば、稲の成育調べでは、事前に説明してくださる地域の方に、8年前の大震災のことにも触れるように話しておく。その後、話を聞いた子ども達からは、『今、自分たちが育てている「米」は、大丈夫なのか。食べても安心なのか。』と、新たな疑問が生まれる。そこで、次なる一手として、教師が専門家につなげていくという活動になる。

このように、子ども達の活動をコーディネートしていくことで、点であった一つ一つの活動が線でつながりストーリー性を持つようになる。そうすることによって、子ども達の知識が深まり、単元終了時には達成感・充実感を味わわせることができると思う。



実践①

○ イメージマップ作り（湯川村のよいところ）

湯川米、勝常寺、アスパラ、二輪菊、水が有名である。

ふるさと納税の返礼品で湯川米が好評だった。

<課題> 村の基幹産業である米を中心に調べていこう。

実践②

○ 米作り（地域の方、会津ファーム）

田植え



稲の成育調べ



・子どもたちは、湯川米のおいしさの秘密や米を育てるためには、八十八の手間があることを知った。また、地域の方から8年前に、原発事故が発生し、米が売れなくなり困ったことや風評被害があった話を聞いた。

<新たな課題>

なぜ、放射線の事故が起こったのか？ 放射線とは何か？

実践③

○ 関係機関との連携（環境再生プラザ）

- ・ 福島県の被害
- ・ 湯川村の被害
- ・ 原発事故で起こったこと

放射線教育

実際に放射線量を測定した。

- ・ 放射線とは？
- ・ 自然放射線とは？



・ 子どもたちは、放射線のために米が売れないので、放射線は悪いものとイメージをもっていた。そこで、放射線について、神戸学院大学の礒部先生と環境再生プラザの方々から教えていただく機会を設けた。礒部先生から、放射線は医療にも使われており、自然放射線も存在しているので、いたるところで放射線が飛んでいることを教えてもらった。また、実際に簡易放射線計で一人一人が校庭の放射線量を計

<新たな課題>

放射性物質が放出されたことで何が起こったのか？

他学年の取組



3、4年生

・講師を招いて



霧箱を使って



神戸学院大学 磯部久美先生

6年生

より具体的に・・・



そして

これからの生活について

実践④

○ 風評被害について知る。(祖父母学級)

祖父母学級



・子どもたちは、おいしいお米の作り方を知るとともに、親戚に新米を送っていたが、震災当時は、子どもの健康に心配だからと遠慮されたことがあったことなど、風評被害について知った。また、安全なのに米の価格が安くなったことや、いじめについての話も聞いた。

<新たな疑問>

風評被害等についてどんな対策をとったのか？

○ 放射線に対する国、県、村の対策について知る。(祖父母学級、地域の方から)

祖父母学級での話から



- ・ 田んぼにカリウムをまいた。(県)
- ・ 校庭の土の入れ替えをおこなった。(村)
- ・ 首都圏での湯川米のアピールをした。

地域の方の話から



- ・ 米の買い取り(国)をしてくれた。
- ・ ふるさと納税の返礼品としての湯川米を活用した。

<新たな課題>

全量全袋検査って何だろう？

実践⑤

○ 湯川米の全量全袋検査（見学学習）

全量全袋検査



・子どもたちは、全部の袋を検査していることや全部検査する理由が分かった。

実践⑥

○ コミュタン福島での体験（霧箱体験）

コミュタン福島での体験学習



・大きな霧箱で放射線を見た。
・放射線は、しゃへいできることが分かった。

実践⑦

○ 湯川村をアピール（郡山駅）

発信（郡山駅にて）



・パンフレットを作り、湯川村のよさを伝えたが、湯川村は思ったより知られていなかった。

実践⑧

○ 授業公開でこれまでの活動をアピール

発信（放射線教育授業公開にて）

今回の発表は、湯川米のおいしさと安全を知らせるアピールすることを目的としている。しかし、地域の方や祖父母学級での話から湯川米が受けた原発事故による風評被害についても発表することとした。発表を通して、放射線の正しい知識が必要であることを伝えて行かなければならないことに気付かせることができた。

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点（発信に関する事項）
<p>1 学習してきたことを発表する （1）今までの総合的な学習の時間の学習の流れを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の生長の様子 ・湯川米のおいしさ ・全量全袋検査 ・放射線について ・東日本大震災と原発事故 ・風評被害に対する対策等 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習で学んだ湯川米のおいしさや安全性について発表するよう助言する。 ○ 発表の中に、正確な数値を表示し、分かりやすい言葉を選んで話せるように支援する。 ○ 発表後に、聞いてくださった方から、感想を聞いたり、質問を受けたりするよう声をかける。



これまでの流れを、順序に従って簡単に説明しました。



(2) 詳しく話を聞きたい方へ話す。

20 ○ 分かっていることを詳しく話せるようにする。



さらに詳しく知りたい方に、自分の言葉でしっかりと説明することができました。

2 これからの活動について話し合う。

10 ○ 発表の良かった点と改善する点を明らかにする。

(1) どんな感想、質問がされたか。

(2) これからの活動について



「ここで学んだことを、下学年の人に、福島県内外の人に伝えたいです。」



3 感想を発表する。



- 5
- 原発事故があり、風評被害があったことを下級生にさらに分かりやすく伝えていこうとする気持ちを大切にする。
 - 調べてきて分からなかったことが分かってきたことを下級生に伝えていくことを話す。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 本校では、風化防止と風評被害の払拭の2点をねらいとして、放射線教育に取り組んできた。実践を通して、震災はおろか放射線についての意識が薄れている子がほとんどであることが明らかになった。今後、ますます震災を知らない子どもが増えてくる。さらに、子どもだけでなく、大人も、教員も増えることが予想される。風化させないためにも、我々教員には、子どもたちに放射線教育を行っていく使命があることを再確認できた。また、一番の成果は、教員自身の意識が変わったことで、子どもたちの意識も変わったことである。
- 環境再生プラザさんの連携サポートにより、より高度で、内容の濃い活動ができた。このことにより、子どもたちはもちろん、教員の知識もより深めることができた。

2 課題

- 今年度は、全国で台風被害、豪雨被害が相次ぎ、本県においても甚大な被害が出ている。今後も放射線教育・防災教育を推進し、東日本大震災の風化防止及び自然災害への防災意識を高める必要がある。また、学校だよりやホームページなどで、震災のこと、放射線のこと、さらには授業公開のことを発信し続けてきたが、授業公開の時の保護者、先生方の参観者数が少なかった。地区の放射線教育に対する意識を、変えていく必要がある。